

やま うち かつ とよ
山内一豊と掛川

◆ **信長・秀吉・家康と三人の
 天下人に仕えた武将**

徳川家康は、今川氏真が掛川城を出ると、重臣の石川家成に掛川城を守らせました。家康は、武田氏の諏訪原城や高天神城などがあるので、掛川城に重臣を配置することにしました。

1590年に天下を統一した豊臣秀吉は、徳川家康を関東に移し、家康を包囲するために自分の家臣を配置しました。秀吉は、山内一豊を5万石で掛川城主にし、家康に備えるために大規模な城の改修を命じました。



山内一豊 (財)土佐山内家宝物資料館蔵

◆ **山内一豊の一生**

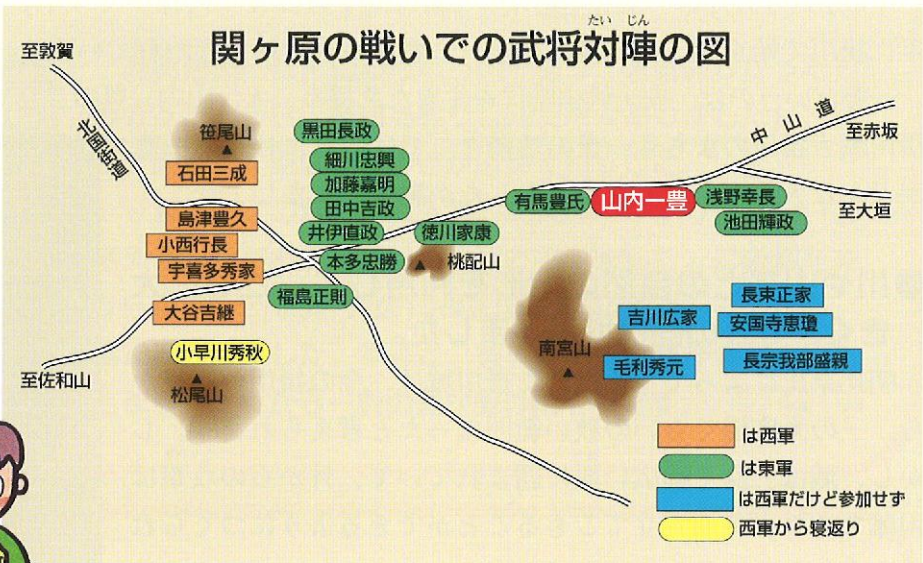
年代	一五四五	一五六〇	一五六七	一五七〇	一五七三	一五七五	一五七七	一五八二	一五八四
歳	0才	15才	22才	25才	28才	30才	32才	37才	39才
場所(石高)	近江国(滋賀県) (二百石)	<p>自由に商売してもよい (楽市・楽座)</p>			近江国唐国 (四百石)	播磨国(兵庫県) 有年 (七百石)	播磨国 (千二百石)	近江国長浜城主 (五千石)	
できごと	尾張(愛知県)黒田城に生まれる	<ul style="list-style-type: none"> このころから織田信長に仕える 妻、千代を迎える 			豊臣秀吉の配下として浅井・浅倉攻めに参加 <td>このころ、長篠の戦いに参加</td> <td>明智光秀との戦いに参加</td> <td>小牧・長久手の戦いに参加</td> <td></td>	このころ、長篠の戦いに参加	明智光秀との戦いに参加	小牧・長久手の戦いに参加	
	<p>織田信長</p>		<p>千代(まつ)</p>		<p>豊臣秀吉</p>				

(掛川城が徳川家康支配の時代)

◆関ヶ原の戦い

1600年、徳川家康は、石田三成と戦うために下野国（栃木県）から西に向かうことにしました。家康に従い下野国に行っていた一豊が、自分の城を使ってくださいと申し出て、家康を喜ばせました。

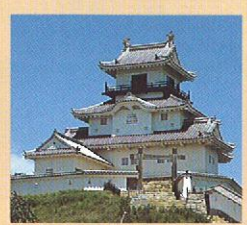
一豊は、関ヶ原の戦いの際には、東軍が背後から攻撃されないよう守る役目をしました。



関ヶ原の戦いで、山内一豊は、どの位置で戦ったのかな。

一五八五	一五八五	一五九〇	一五九四	一五九五	一五九六	一六〇〇	一六〇一	一六〇三	一六〇五
40才	40才	45才	49才	50才	51才	55才	56才	58才	60才
若狭国(福井県)高浜城主 (二万九千八百石)	近江国長浜城主 (二万石)	遠江国掛川城主 (五万石) (山内一豊が掛川城主としての10年間)	(五万一千石)	(五万九千石)	(二十万石)	土佐国(高知県)領主 に任命される			
地震で、長女や多くの家臣を失う	秀吉の小田原攻めに参加	大井川の治水工事を行う	領地の検地を開始	掛川城天守閣をつくり始める	掛川城天守閣完成	関ヶ原の戦いに東軍(徳川家康軍)として参加	土佐国に入る	高知城に入る	死去

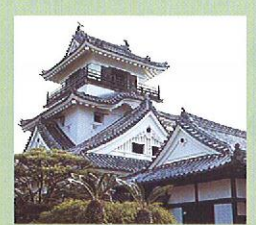
石高とは、その領地で収穫できる米の量の事です。
1石=米約180リットル(約150kg)



掛川城天守閣



徳川家康



高知城

山内一豊をめぐるエピソード

◆掛川のまちづくりをした山内一豊

平成16年10月2日・3日、掛川で『第11回一豊公&千代様サミット』が行われました。サミットは平成6年に掛川で始まり、その後、毎年、一豊ゆかりの地で行われています。

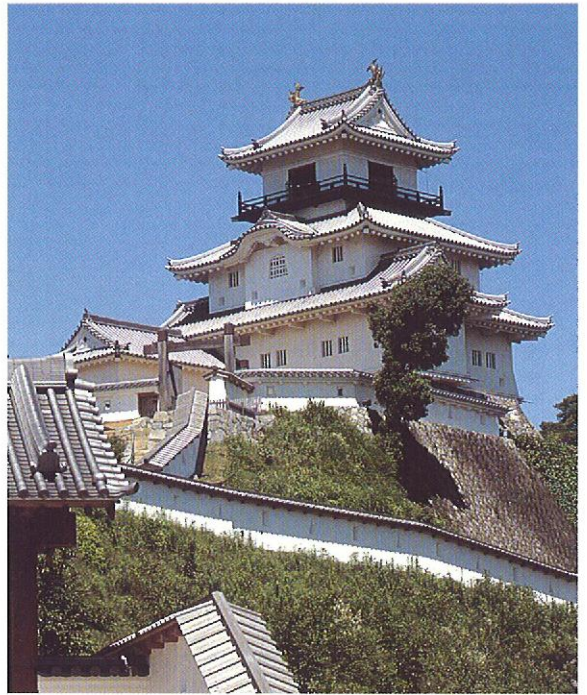
一豊というのは、安土桃山時代を生きた武将の一人、山内一豊のことで、掛川との関わりが深い人物です。掛川城も掛川のまちも一豊の功績なしでは語れません。一豊がどんな人物で、どんなことをしたか調べてみましょう。

●川や山などの自然の地形を利用して、さらに大きく、守りの固い城にしました。

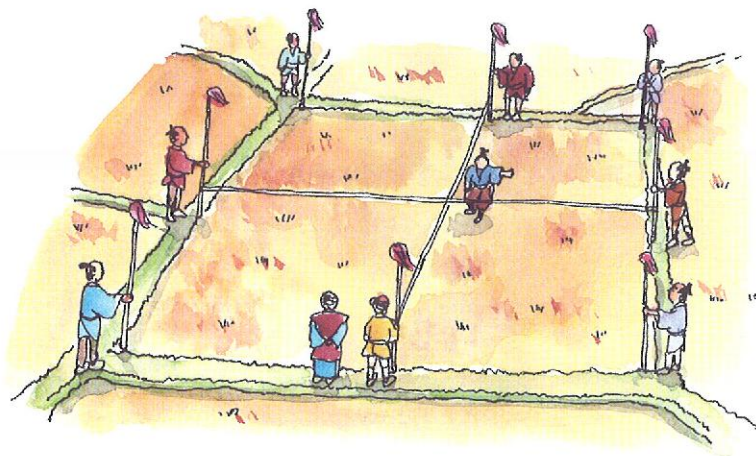
朝比奈氏によってつくられた掛川城は、今の掛川西高校から、三の丸広場くらいの狭い範囲だったと考えられます。しかし、城は、深く幅広い堀に囲まれていて、外からの攻撃は困難であり、長期間立てこもることができるようにつくられていました。

一豊は、関東の徳川家康が東海道を攻めてくることを想定して、大勢の兵が立てこもることができるように城を大きくしました。また、攻撃から建物や兵を守るために土を盛って土塁を築いたり、堀を掘ったりして、守りを固めました。

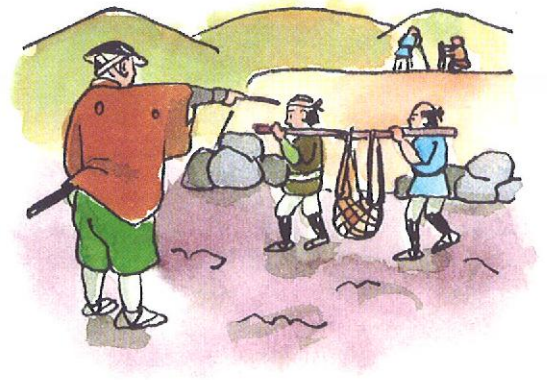
一豊の時に初めて掛川城に天守閣が建てられました。



●秀吉の命令で、検地を行いました。



●町に道路をつくり、堀をめぐるせて、城下町を整備しました。



●寺院や神社を大切にしました。

●朝鮮侵略用の軍用船をつくりました。

●大井川の治水工事をして、洪水を防ぐとともに新田の開発を行いました。

●関ヶ原の戦いでまさきに掛川城を家康に差し出しました。

行ってみよう!



名馬の話



清水銀行掛川支店前の彫刻 一豊と千代

織田信長に仕え始めたころの一豊は、大変貧しかったそうです。ある日、名馬を売りに来た者がありましたが、値段が高くて家臣はだれも手が出ませんでした。

一豊は、この馬を手に入れ、出世の足がかりにしたいと考えましたがお金が無く困り果てていました。この話を夫から聞いた千代は、黄金10枚を自分の鏡の箱から取り出し、馬を買わせました。すると、案の定、この馬が信長の目にとまり、それから一豊の運が開けたそうです。



軍配

軍扇



兜

山内家の鎧

【掛川城天守閣・御殿展示】

笠の緒の文の話

徳川家康は、一豊らの武将とともに会津（福島県）の上杉氏を討ちに向かった下野国（栃木県）で、石田三成が兵を挙げたという知らせを聞きました。

石田三成らの人質になっていた一豊の妻、千代は、大阪の情報を手紙に書いて家康に持たせ、一豊に届けました。一豊は、家来の笠の緒に隠された妻からの密書を読んだ後、手紙は読まないでそのまま家康に差し出しました。これは、「自分の運命を家康に託す」という気持ちの表れだと思われれます。おそらく、千代の密書にそうするように書かれていたのでしょう。

この行いに大変感動した家康は、関ヶ原の戦いに勝った後、一豊を5万9千石の城主から、土佐（高知県）一国20万石の大名にしました。



笠の緒
ここに手紙をつけて敵に見つからないようにしました。

関ヶ原の位置





龍華院 大猷院霊屋

◆朝比奈泰瀨が築いた最初の掛川城

最初の掛川城は、1497年から1501年ごろ今川氏の重臣朝比奈泰瀨により、掛川周辺を支配する拠点としてつくられました。その場所は、今の第一小学校の北側の小高い丘で、徳川家光の霊をまつる龍華院大猷院霊屋が建っているところです。その後、今の場所に移され、規模も拡大されました。

約70年続いた朝比奈氏は、1569年に、城を徳川家康に明け渡しました。

1590年、掛川城主になった山内一豊は、天守閣を建て、城下町の整備を行いました。

19世紀中ごろの大地震で、天守閣はこわれましたが、平成6年に、市民の寄付により、全国で初めての本格木造の天守閣が復元されました。

全国で初めての本格木造の天守閣の復元

◆敵の侵入を防ぐさまざまな工夫



忍び返し

剣や鎧の先などを並べて敵が侵入できないようにしたものです。



石落とし

石などを落として、石垣をよじ登ってこようとする敵を、攻撃するためのものです。

掛川古城のあったところ



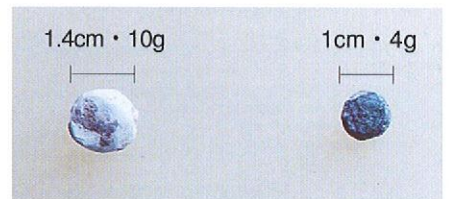
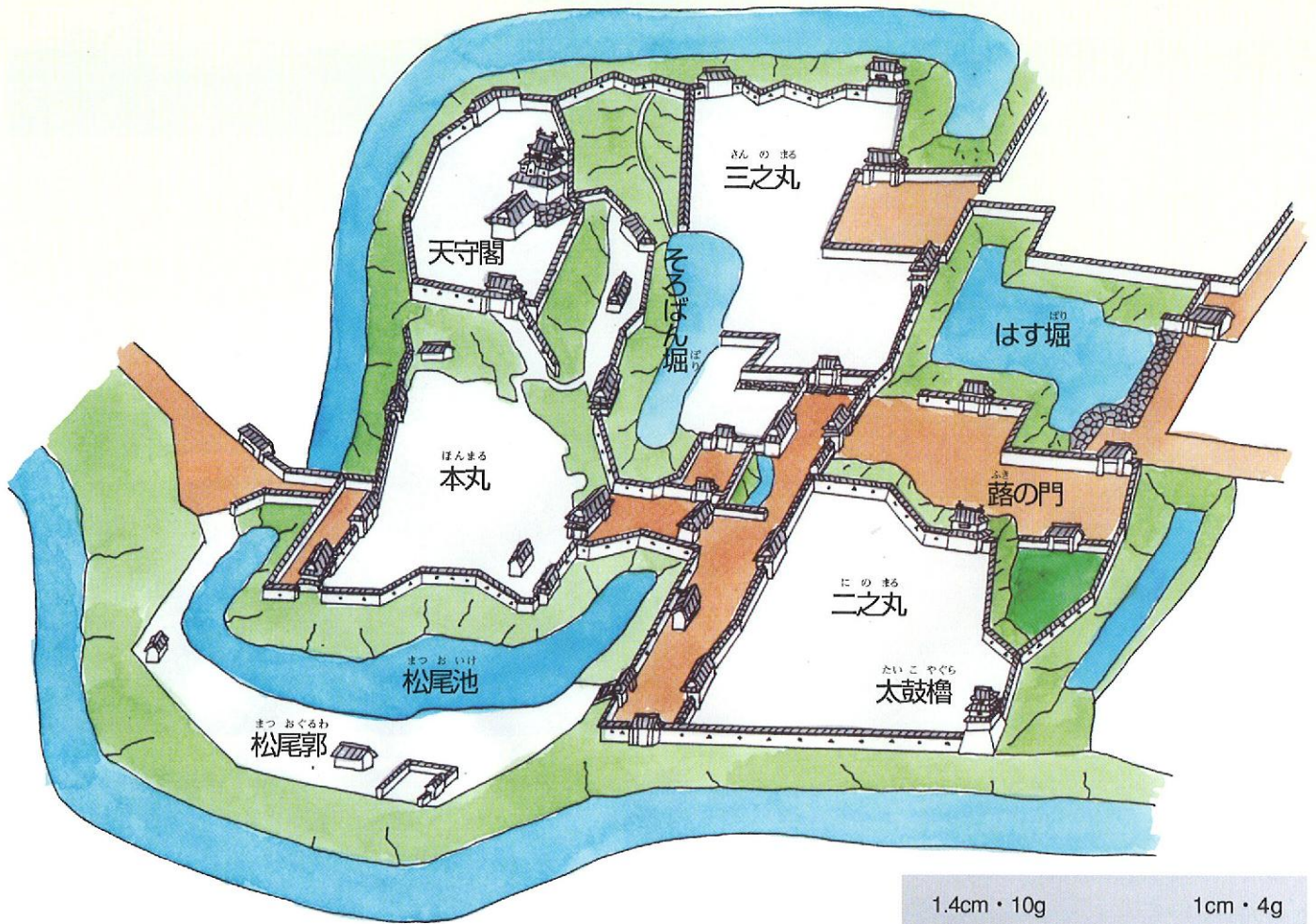
宮上茂隆氏の設計により復元された天守閣



狭間

弓矢や鉄砲などで敵を攻撃するために壁にあけられた穴です。

◆1645年ごろの掛川城の中心部



発掘調査で見つかった鉄砲の玉

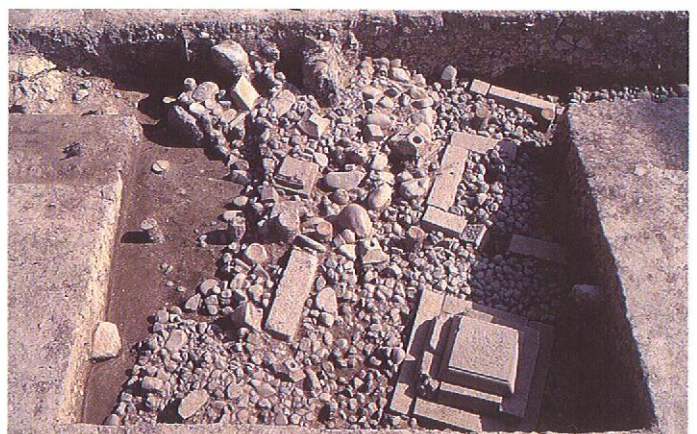
◆掛川城は小高い丘と平地を利用した平山城

ひら やま じろ



曲がりくねった階段

敵が、天守閣に大人数で攻めてこれないように、階段の幅を狭くして曲がりくねってつくられています。



本丸の地下から出てきた墓

朝比奈氏による掛川城築城により埋められた墓で、城が作られる前は墓地であったことがわかります。



◆徳川の命を受け、築かれた横須賀城

横須賀城の築城は、1578年から始まり1580年に完成したといわれています。その場所は、今の横須賀小学校から北西へ約2キロほどのところです。

初代城主大須賀康高は、当時、浜松城主であった徳川家康の命によって城を築きました。

以後、横須賀城は20代の城主のもと、1868年（明治元年）まで、本丸を中心に三の丸・二の丸と規模を拡大していき、近隣地域の政治・軍事の中心施設としての役目を果たしました。

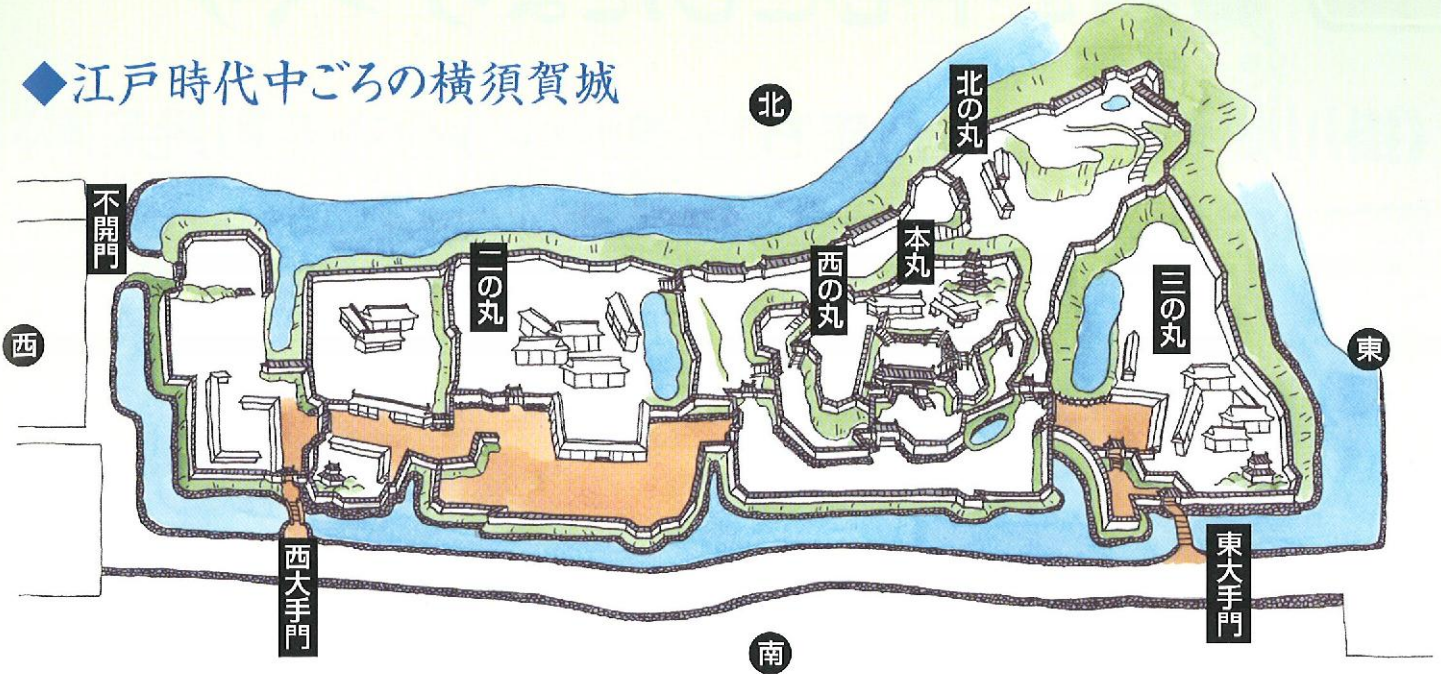


恩高寺に残る横須賀城の鯨瓦



昔の堀のおもかげを今に伝える三日月池

◆江戸時代中ごろの横須賀城

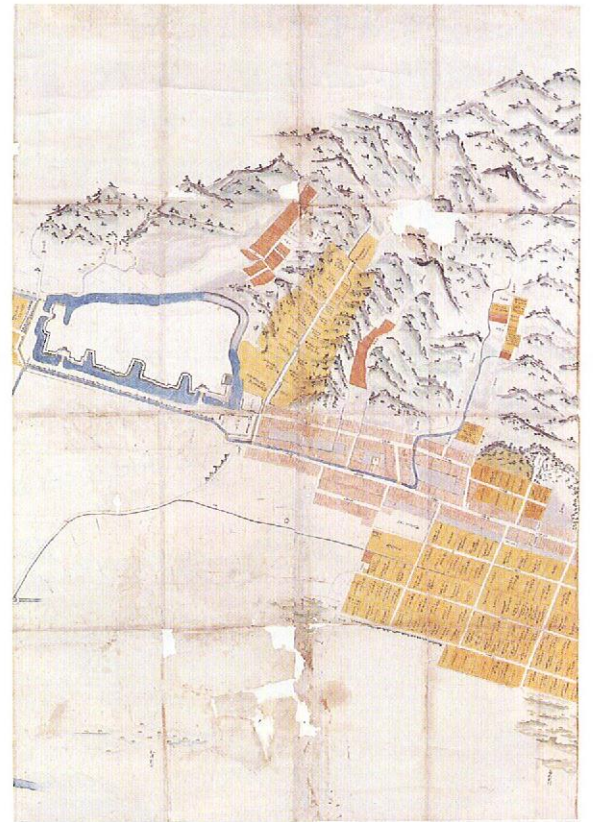


横須賀城は、東西に長く築かれ、北に小笠山、南に入り江がある地形を生かした平山城でした。

城の正門である大手門が2つあるため「両頭の城」と言われています。不開門は、特別な時にだけ利用されました。



撰要寺に移築された不開門



横須賀城下町絵図

徳川家康のねらいは…



浜松城を本拠に遠江を領地としていたが、1574年、武田軍の攻撃によって、高天神城を奪われてしまった。

高天神城を奪還するために横須賀城を拠点にしたかったんだね。

